

夢・努力・感動

～生徒とともに～

平成30年4月27日(金)

生徒・保護者 No.1

人権・同和教育部だより

優劣のかなたに

大村はま

優か劣か
そんなことが話題になる、
そんなすきまのない
つきつめた姿。
持てるものを
持たせられたものを
出し切り
生かし切っている
そんな姿こそ

優か劣か、
自分はいわゆるできる子なのか
できない子なのか、
そんなことを教師も子どもも
しばし忘れて、
学びひたり
教えひたっている、
そんな世界を
見つめてきた。

学びひたり
教えひたる、
それは 優劣のかなた。
ほんとうに 持っているもの
授かっているものを出し切って、
打ち込んで学ぶ。

優劣を論じあい
気にしあう世界ではない、
優劣を忘れて
ひたすらな心で、ひたすらに励む。

今は、できるできないを
気にしすぎて、
持っているものが
出し切れていないのではないか。
授かっているものが
生かし切れていないのではないか。

成績をつけなければ、
合格者をきめなければ、
それはそうだとすると、
それだけの世界。
教師も子どもも
あえいでいる。

学びひたり
教えひたろう
優劣のかなたで。

(この詩は、著者が亡くなるまで推敲を続けたので、遺されたメモ、下書き、校正稿をもとに、関係者らによって一部を補完されたものである。)



違う関係性の中でのことのように。そして「協働」ですが、基本的には協力して働くことで、「一緒に」という意味合いが強く、それぞれができることや得意分野を受けもつ場合に使うようです。

以上のことを踏まえると、「優劣のかなたに」の「学びひたり 教えひたる」姿は、「協働学習」と言えるのではないのでしょうか。教師と子どもが、立場は違うけれど、同じ空間で一緒に「ひたすらな心で、ひたすらに励む。」のは、授業中はもちろんですが、部活動等の日々の生活の中でもあるべき姿であると思います。

しかし、それを忘れて優劣を気にし過ぎて「持っているもの 授かっているもの」を出し切れない状態になってはいないでしょうか。それでは「協働学習」になりません。

「ほんとうに 持っているもの 授かっているものを出し切って、打ち込んで学ぶ」ということは、実は大変なことであり、悲しみを伴うことでもあります。なぜなら、「持っているもの 授かっているもの」は、人によって異なるからです。この詩の作者の大村氏は、以下のようなことも述べています。

「子どもたちに、安易に、だれでもやれる、やればやれるといいたくない。やってもできないことがある――それも、かなりあることを、ひしと胸にして、やってもできない悲しみを越えて、なお、やってやって、やまない人にしたいと思う。」(「はまゆう」第2号)

小学生の頃、人一倍「眠がり」であったという大村氏は、「眠さ」という非常に人間くさい、生理的な単純な欲求に負けて寝てしまうことの情けなさや、お詫びのしよりのなさを思い知っていたそうです。人の弱さや限界も感じていたそうです。そして、努力が空しく消え去ることや、報われることが少ないことから、決して目を背けずに、もっと深いところで人を励まし、支えたのが大村氏でした。「やってもできない悲しみ」は、あるけれど、それでも「やってやって、やまない人」に育てようと覚悟をしていたのです。

「夢」に向かって、「ひたすら」に、ひたむきに、「努力」ができたらいのですが、できない……授業中に、つい居眠りをしてしまう……。または、「努力」したのに報われない……。そんな現実と直面しながらも、なお、「やってやって、やまない」ことを目指したのではないのでしょうか。

人によって、できることやできないこと、得意なことや不得意なこともあるけれど、自分を出し切って、みんなで一緒に頑張ることが「協働」ではないかと思います。

みなさんは、大村氏の詩や言葉を、どのように思われましたか？ご意見や感想等、何でも構いませんので、お寄せ下さい。

今年度の人権・同和教育部は以下のメンバーです。場所は、管理棟三階地歴公民科準備室です。

森山祐司(部長・数学科) 藤原智子(国語科) 福田淑子(国語科)

以上、文責：福田

参考資料：「優劣のかなたに 大村はま60の言葉」荻谷夏子(筑摩書房)

「違いがわかる辞典」/ (chigai-allguide.com)

みなさん、こんにちは。人権・同和教育部です。昨年度までの「人権・同和教育部だより」は学期に一回の発行で、活動報告等が中心でした。今年度は、それに加えて様々な角度から「日常生活を振り返る」または「立ち止まって考える」ための「きっかけ」を提供できないものかと考えています。

初回は、大村はま氏の「優劣のかなたに」を紹介します。この詩の「学びひたり 教えひたる」姿こそが、「協働」ではないかと思うからです。

「協働」という言葉を見たり聞いたりしたことがありませんか。本校では到達目標スローガンとして「自立 協働」を掲げていますが、その一部です。また、そのための取り組み姿勢として「夢 努力 感動」も掲げています。(そして、人権・同和教育部だよりの「題」にもしています。)

では、「協働」とは、どのような意味でしょう。「共同」や「協同」との違いを意識したことはあるでしょうか。「違いがわかる辞典(chigai-allguide.com)」によると、「共同」とは、力を合わせて事を行うことで、同じ資格や同じ条件の関係性の中でのことのように。次に「協同」は、心と力を合わせて事を行うことで、精神性が入ってくるようです。また、消費者と生産者のように、立場の

